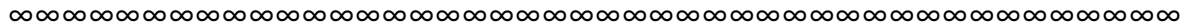
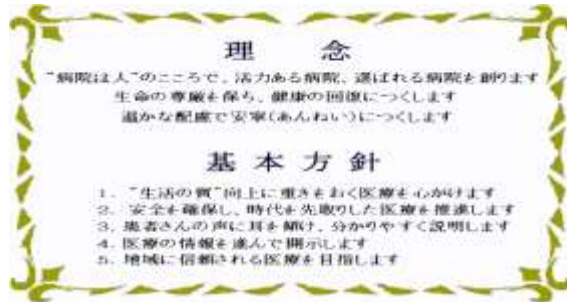


診察などでお待ちの間にお読み頂くパンフレットです。



平成 30 年 7 月 1 日 発行
K K R 札幌医療センター
〒062-0931
札幌市豊平区平岸1条6丁目3-40
電話 (011) 822-1811
<http://www.kkr-smc.com>

(30-7号)



健康関連用語 - シリーズ 104

7月(文月)のこよみ

7月 7日 (土) 七夕
7月 16日 (月) 海の日
7月 23日 (月) 大暑

暑さもようやく厳しさを増してまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、7月12日は「人間ドック」の日です。人間ドック発祥の歴史は1954年(昭和29年)まで遡ります。日本病院会の第二代会長の呼びかけにより、国立東京第一病院(現国立国際医療研究センター病院)で、後に人間ドックと呼ばれるようになる「短期入院身体総合精密検査」がスタート。日本病院会会員の病院で採用されると、すぐに全国の病院へと広まっていきました。

なお、国立東京第一病院における当時の検査予定表によると、かつての人間ドックの所要時間は6日間に渡っていたようです。その検査の種類は全部で43項目。体温や脈拍の測定にはじまり、毎日様々な検査が入院中に行われていました。

人間ドックについて法的な定義は特にありませんが、日本人間ドック協会が「人間ドック検診」と呼ぶものは、生活習慣病検診とがん検診の組み合わせが基本検査項目となっています。

様々な病気や異常を早期に見つけるには、やはり人間ドックの受診が大切です。早期に発見して治療を始めれば、その後の人生は大きく変わります。もちろん、異常がなければそれにこしたことはありませんが、自分の体調や健康状態が気になる人は、一度、受診を考えてみてはいかがでしょうか。

甲状腺ってどんな臓器？

耳鼻咽喉科 今井良吉
臨床検査科 佐藤文昭

甲状腺は「のどぼとけ」の下にある臓器で、蝶が羽を広げたような形をしています。主として海藻類に多く含まれるヨウ素（ヨード）を原料として、甲状腺ホルモンのサイロキシン（T4）、トリヨードサイロニン（T3）が産生しています。これらは甲状腺刺激ホルモン（TSH）によって調整されていて、成長促進作用などがあります。

甲状腺の病気には、大きく分けてホルモン分泌量の異常によるものとできもの（腫瘍）によるものがあります。ホルモン分泌異常である甲状腺機能亢進症（バセドウ病など）はT4、T3の分泌過剰を起因とするものであり、甲状腺機能低下症（慢性甲状腺炎である橋本病など）は分泌低下を起因とするものです。バセドウ病の特徴として、頸が腫れる、眼球が突出する、汗をかきやすいなど代謝が亢進する症状が現れます。それに対して橋本病は、除脈、寒がるなど代謝が低下する症状が現れます。腫瘍には良性、悪性（甲状腺がん）があります。甲状腺がんは、組織の特徴により分化型甲状腺がん（乳頭がん・濾胞がん）、甲状腺髄様がん、未分化がんに分類されます。

甲状腺腫瘍の検査としては、超音波検査（エコー）が最も有用で、痛みがなく、検査時間も15分程度と短時間です。甲状腺腫瘍が確認された場合には、エコーを用いて穿刺吸引細胞診（甲状腺に、針を刺して採取した細胞を顕微鏡で調べる検査）を行い、がんかどうかを調べます。良性腫瘍であれば、定期的なエコー検査を行います。また、がんの場合は手術治療を行うことが一般的です。手術後の定期的なエコー検査は、手術後1～2年は1～3か月ごと、手術後3～5年は6ヵ月ごとに検査をするのが一般的です。乳頭がんや濾胞がんでは、治療後10～20年経ってから再発することもありますので、最低でも10年できれば生涯にわたって定期的な検査を行うのが望ましいとされています。

何かあれば当院耳鼻科もしくは、当検査科にご相談ください。

